

医学学術情報IT化講演会

地方会オンライン演題登録システム

日本消化器病学会地方支部会での運用

日本消化器病学会 消化器臨床ネットワーク委員会
東京慈恵会医科大学 消化器肝臓内科
銭谷幹男

日本消化器病学会
中沢三郎

日本消化器病学会

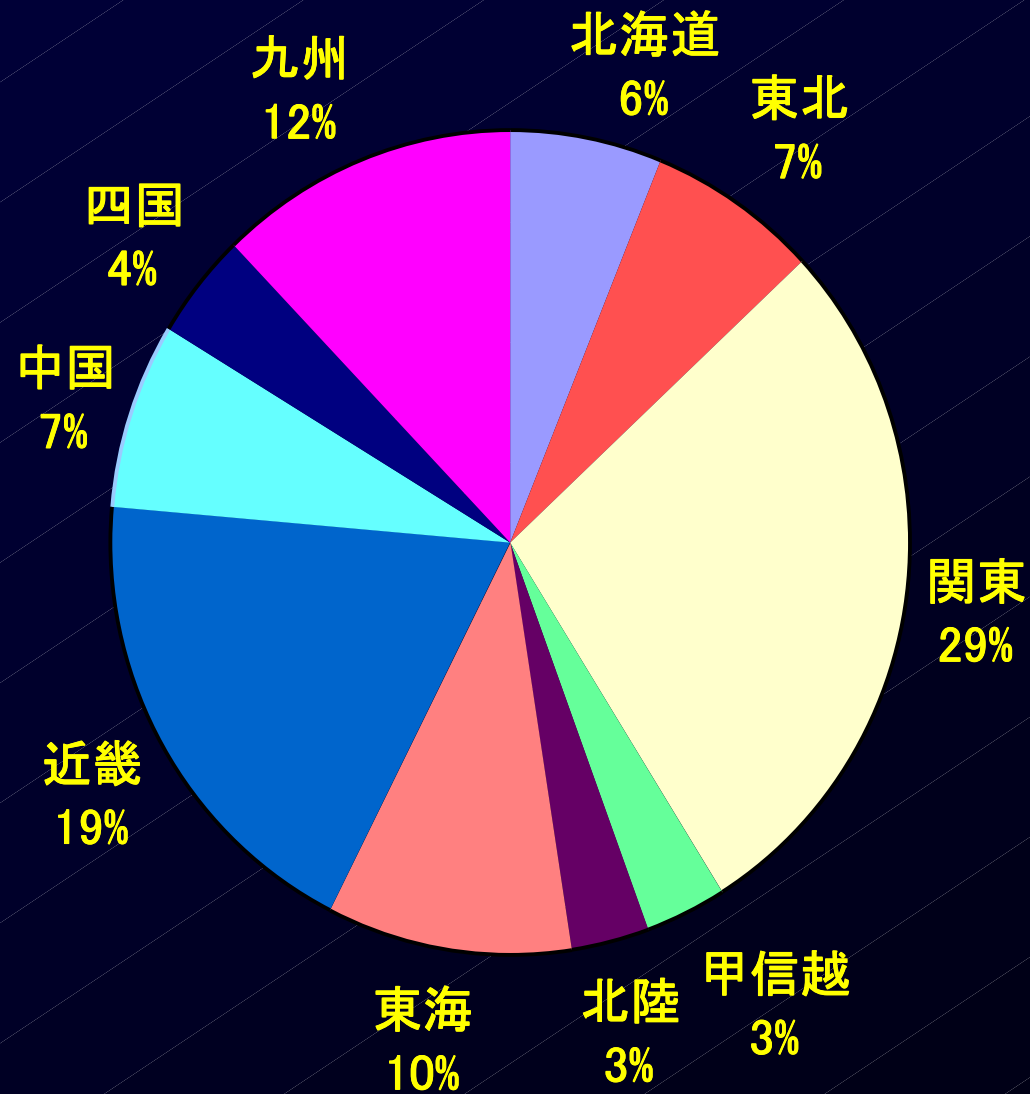
会員数: 27011名

支部会: 10支部

各支部会がそれぞれ例会を催す.
症例報告は殆どが支部会で行われる.

膨大な症例が毎年支部会で報告されているにも関わらず
データベース化されておらず, 有効活用がなされていなかった.

日本消化器病学会支部会会員割合 総会員数=27011



Uminシステム導入の背景

消化器関連学会(DDW-Japan)では, Uminを使用した演題登録がなされていた.

少なくともOn-line登録の土壌はあった.

支部会でのOn-line演題登録が可能かについては明らかではなかった.

貴重な症例のデータベース化については異論がなかった.

消化器病学会地方支部会の演題数

平成 8年度	2802演題	
平成 9年度	3012演題	
平成10年度	3133演題	
平成11年度	2780演題	
平成12年度	2534演題 + α	←UMIN導入開始

平成6年以降抄録の学会誌掲載廃止

廃止直前年の抄録ページ数： 約600頁以上

それ以後は演題名のみ学会誌に掲載

問題点 1

支部会の症例は一般公開では症例が特定されてしまう可能性がある.

あくまでも学術情報なので, アクセスを限る.



Uminの会員になる必要がある.



学会として一括登録を行った

一括登録の問題点

周知が難しい → 広報が必ずしも効果的でない

ITを使用しない会員が存在する

個々の問題点, 例外事象の吸収

運用面での対応が必要

データベース化への対応と工夫

医学用語の統一がない

個々の索引用語は必ずしも利用者の目的に
合致しない.

シゾラスが確立していない

全文検索によりある程度対応可能

→ ICDコード化の普及, 症例登録制度の確立

運用上の問題点

1. 地方支部会では発表者がまだ学会に入会していない.
いわゆるデビュー学会であり, 会員でないため,
会員と同様の操作ができない

2. 入力の煩雑さ

入力方法の簡易化

適切なマニュアル作成が必要

入力支援ツールの開発

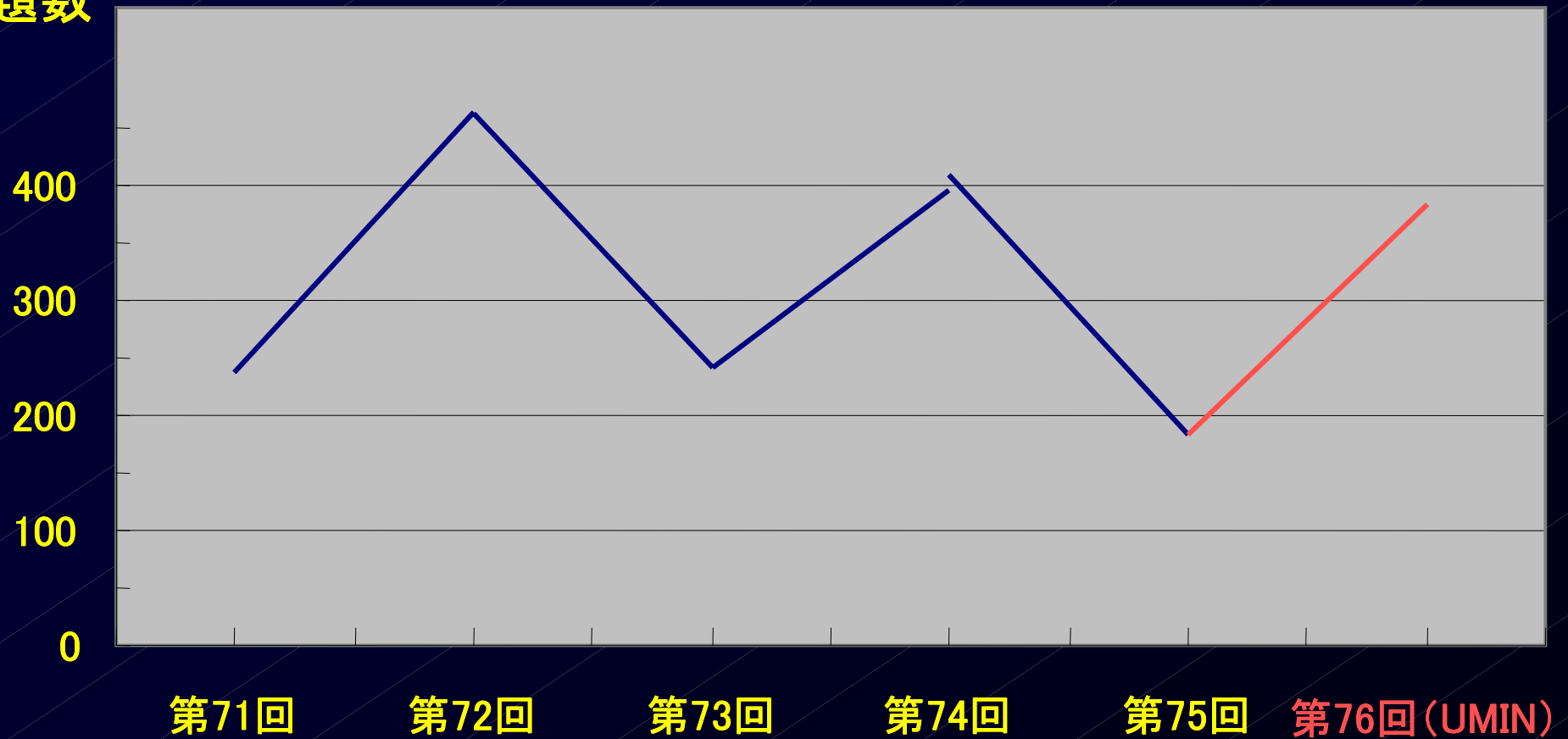
各施設のテンプレート作成など

3. 共同開催学会, 付置研究会の存在

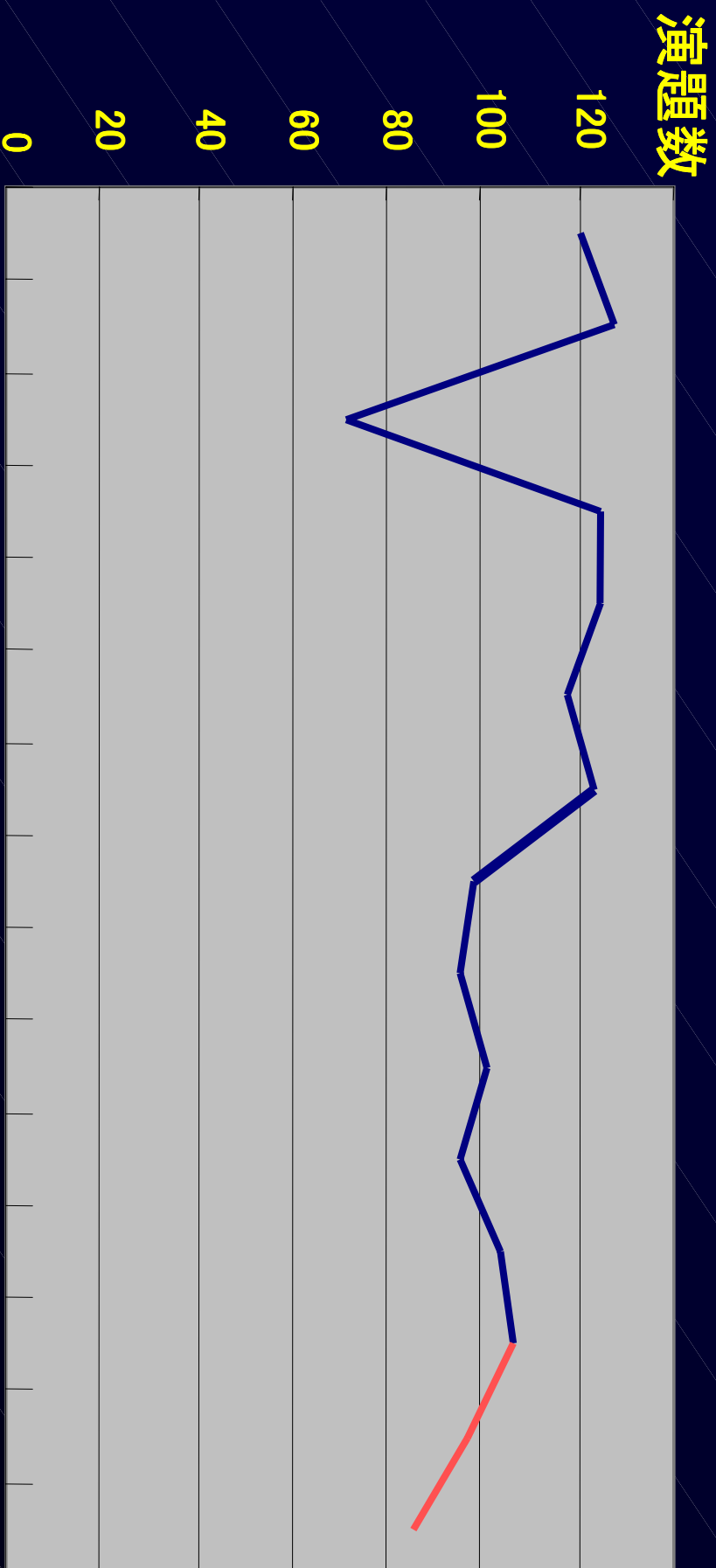
UMIN非加盟あるいは非利用団体との共同開催のための
方策

九州支部における演題数の推移

演題数



関東支部における演題数の推移



第261回 (UMIN)
第262回 (UMIN)

問題点 2

明確ではないが、UMINシステムを取り入れてから
応募演題数が減少しているとの意見がある。

原因として

登録システムが動作しなければいけない、
入力が煩雑で面倒
などが指摘されている。



基本コンセプトに対する問題点は提起されておらず、
システムおよび運用により適合可能である

まとめ

UMINシステムを利用することにより、学会抄録をデータベースとして蓄積することが可能となった。

従来症例報告などとして投稿掲載されない限り、データとしての利用が困難であった、地方支部会の貴重なデータが全文検索可能なデータベースとして確立された。

On-Line登録が可能となった。

当番会長事務局が不慣れなこともあり、On-Line登録の特徴は生かし切れてないが、将来的には事務の軽減に有用である。

将来展望

年間2000症例以上の消化器疾患データベースが構築され
臨床研究に有益な情報の提供が可能となる。

このデータベースは学会員のフリーアクセスが可能であり、
学会員への情報提供として有力なツールとなる。

学会員管理システムとしても有用である。

少数ではあるが、利用できない会員も存在する。

運用上指摘されている点の改善が必要である。

展望 その2

より簡便な入力など, 使いやすいシステム作り

産学協同での開発, 支援享受の可能性

データは産業界にとっても有益である.

より多くの学会加入による症例データベースが構築可能

旧来のデータベースとの競合が生じるが,
ユーザーの便宜性は大きい.

医学情報全体として, 討議されることが望まれる

謝辞

DDW-Japan 事務局
Umin事務局
日本消化器病学会事務局
日本消化器病学会 支部長会

斎藤
木内
飯村